

6 令和2年の自殺の状況

(1) 令和2年における自殺の概要

自殺統計によると（第1-14表）、令和2年の自殺者数（第1-14-1表）は2万1,081人で、前年に比べ912人（4.5%）増加した。性別では、男性が1万4,055人で全体の66.7%を占めている。

年齢別の状況についてみると（第1-14-2表）、「40歳代」が3,568人で全体の16.9%を占め、次いで、「50歳代」（3,425人、16.2%）、「70歳代」（3,026人、14.4%）、「60歳代」（2,795人、13.3%）の順となっている。前年と比べて、50歳代、60歳代以外の年齢階級では増加している。

職業別の状況についてみると（第1-14-3表）、「無職者」が1万1,718人で全体の55.6%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め

人」（6,742人、32.0%）、「自営業・家族従業者」（1,266人、6.0%）、「学生・生徒等」（1,039人、4.9%）の順となっており、この順位は前年と同じである。前年と比べて、「自営業・家族従業者」以外の各職業で自殺者数が増加している。

原因・動機別の状況についてみると（第1-14-4表）、原因・動機特定者は1万5,127人（71.8%）であり、そのうち原因・動機が「健康問題」にあるものが10,195人で最も多く、次いで「経済・生活問題」（3,216人）、「家庭問題」（3,128人）、「勤務問題」（1,918人）の順となっており、この順位は前年と同じである。また、前年と比べて、「経済・生活問題」及び「勤務問題」で自殺者数が減少している。

第1-14表 自殺者の年次比較

第1-14-1表 総数

(単位：人)

	総数			成人			少年			不詳		
		男	女		男	女		男	女		男	女
令和2年 (構成比)	21,081 (100.0%)	14,055 (66.7%)	7,026 (33.3%)	20,250 (100.0%)	13,543 (66.9%)	6,707 (33.1%)	777 (100.0%)	466 (60%)	311 (40%)	54 (100.0%)	46 (85.2%)	8 (14.8%)
令和元年 (構成比)	20,169 (100.0%)	14,078 (69.8%)	6,091 (30.2%)	19,457 (100.0%)	13,590 (69.8%)	5,867 (30.2%)	659 (100.0%)	443 (67.2%)	216 (32.8%)	53 (100.0%)	45 (84.9%)	8 (15.1%)
増減数 (構成比)	+912 —	-23 (-3.1)	+935 (3.1)	+793 —	-47 (-2.9)	+840 (2.9)	+118 —	+23 (-7.2)	+95 (7.2)	+1 —	+1 (0.3)	0 (-0.3)
増減率(%)	4.5	-0.2	15.4	4.1	-0.3	14.3	17.9	5.2	44.0	1.9	2.2	0.0

第1-14-2表 年齢階級別自殺者数

(単位：人)

	総数	少年		成人							不詳
		～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	
令和2年 (構成比)	21,081 (100.0%)	0 (0%)	777 (3.7%)	2,521 (12%)	2,610 (12.4%)	3,568 (16.9%)	3,425 (16.2%)	2,795 (13.3%)	3,026 (14.4%)	2,305 (10.9%)	54 (0.3%)
令和元年 (構成比)	20,169 (100.0%)	0 (0%)	659 (3.3%)	2,117 (10.5%)	2,526 (12.5%)	3,426 (17%)	3,435 (17%)	2,902 (14.4%)	2,917 (14.5%)	2,134 (10.6%)	53 (0.3%)
増減数 (構成比)	+912 —	0 (0.0)	+118 (0.4)	+404 (1.5)	+84 (-0.1)	+142 (-0.1)	-10 (-0.8)	-107 (-1.1)	+109 (-0.1)	+171 (0.3)	+1 (0.0)
増減率(%)	4.5	—	17.9	19.1	3.3	4.1	-0.3	-3.7	3.7	8.0	1.9

第1-14-3表 職業別自殺者数

(単位：人)

	総数	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職		不詳
				学生・生徒等	無職者	
令和2年 (構成比)	21,081 (100.0%)	1,266 (6%)	6,742 (32%)	1,039 (4.9%)	11,718 (55.6%)	316 (1.5%)
令和元年 (構成比)	20,169 (100.0%)	1,410 (7%)	6,202 (30.8%)	888 (4.4%)	11,345 (56.2%)	324 (1.6%)
増減数 (構成比)	+912 —	-144 (-1.0)	+540 (1.2)	+151 (0.5)	+373 (-0.6)	-8 (-0.1)
増減率(%)	4.5	-10.2	8.7	17.0	3.3	-2.5

表1-14-4表 原因・動機別自殺者数

(単位：人)

	総数	原因・動機 特定者	原因・動機 不特定者
令和2年 (構成比)	21,081 (100.0%)	15,127 (71.8%)	5,954 (28.2%)
令和元年 (構成比)	20,169 (100.0%)	14,922 (74%)	5,247 (26%)
増減数 (構成比)	+912 —	+205 (-2.2)	707 (2.2)
増減率(%)	4.5	1.4	13.5

(単位：人)

	原因・動機特定者の原因・動機別						
	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
令和2年	3,128	10,195	3,216	1,918	799	405	1,221
令和元年	3,039	9,861	3,395	1,949	726	355	1,056
増減数	89	334	-179	-31	73	50	165
増減率(%)	2.9	3.4	-5.3	-1.6	10.1	14.1	15.6

注：1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(令和元年は14,922人、令和2年は15,127人)とは一致しない。

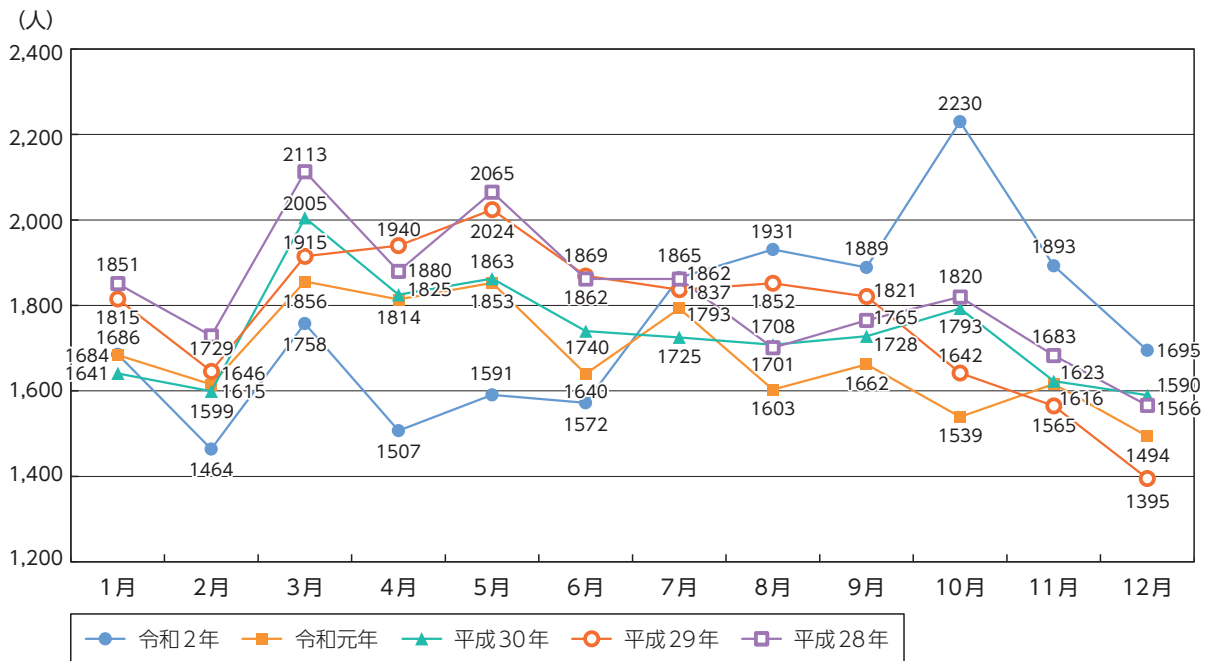
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(2) 月別自殺者数の推移

令和2年における月別自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば（第1-15図）、「10

月」が最も多く、「2月」が最も少なくなっている。また、1、7～12月で前年の自殺者数を上回り、2～6月で前年を下回った。

第1-15図 月別自殺者数の推移

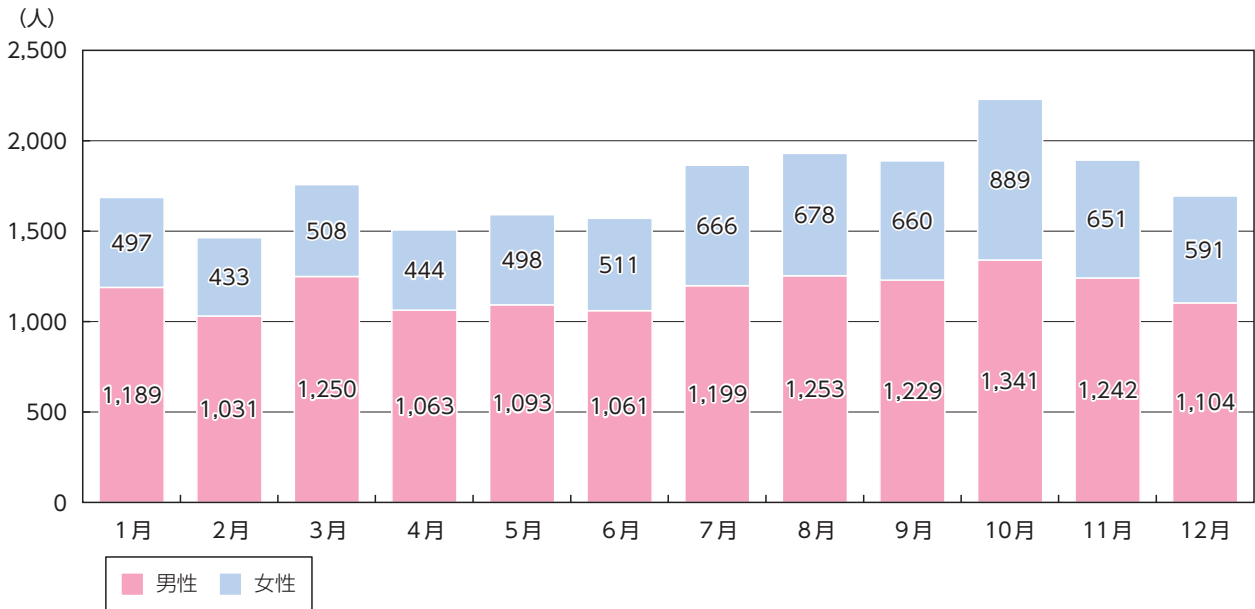


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

また、男女別の月別の自殺者数の推移をみると、自殺統計によれば（第1-16図）、男性、女性ともに「10月」に自殺者数が最も多

くなっている。また、自殺者数が最も少ない月は、男性、女性ともに「2月」となっている。

第1-16図 令和2年における月別自殺者数（男女）

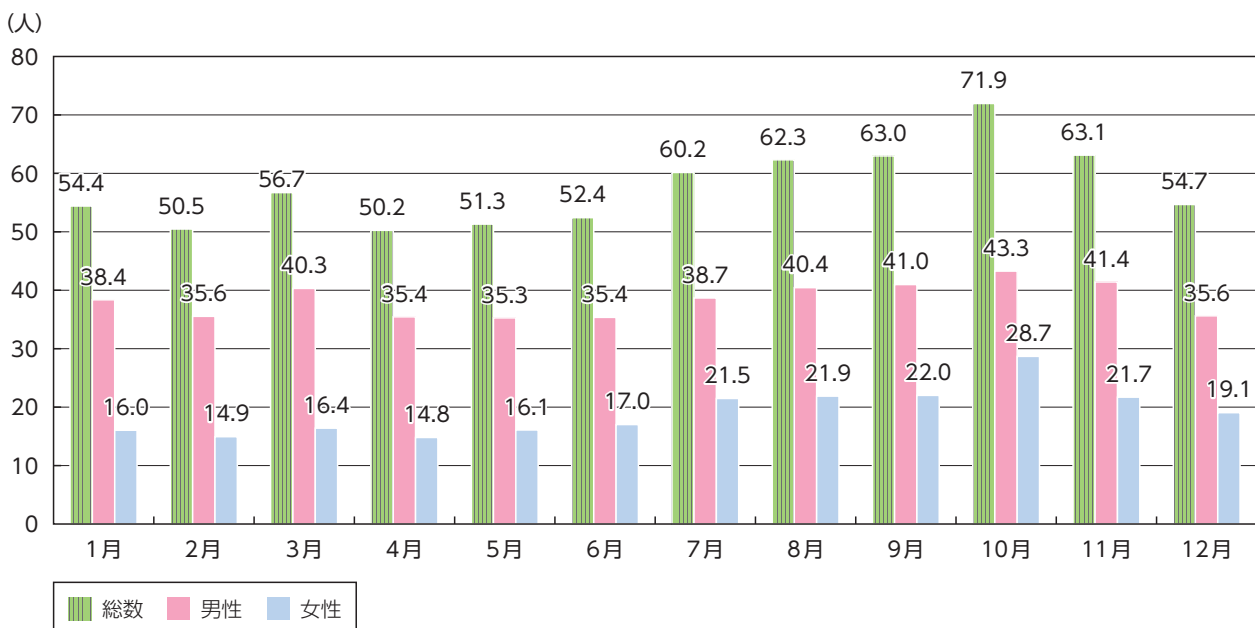


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

1か月間の日数の影響を排除するため、令和2年における月別の一日平均自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-17図）、「10

月」が最も多くなっており、「4月」が最も少なくなっている。

第1-17図 令和2年における月別の一日平均自殺者数



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

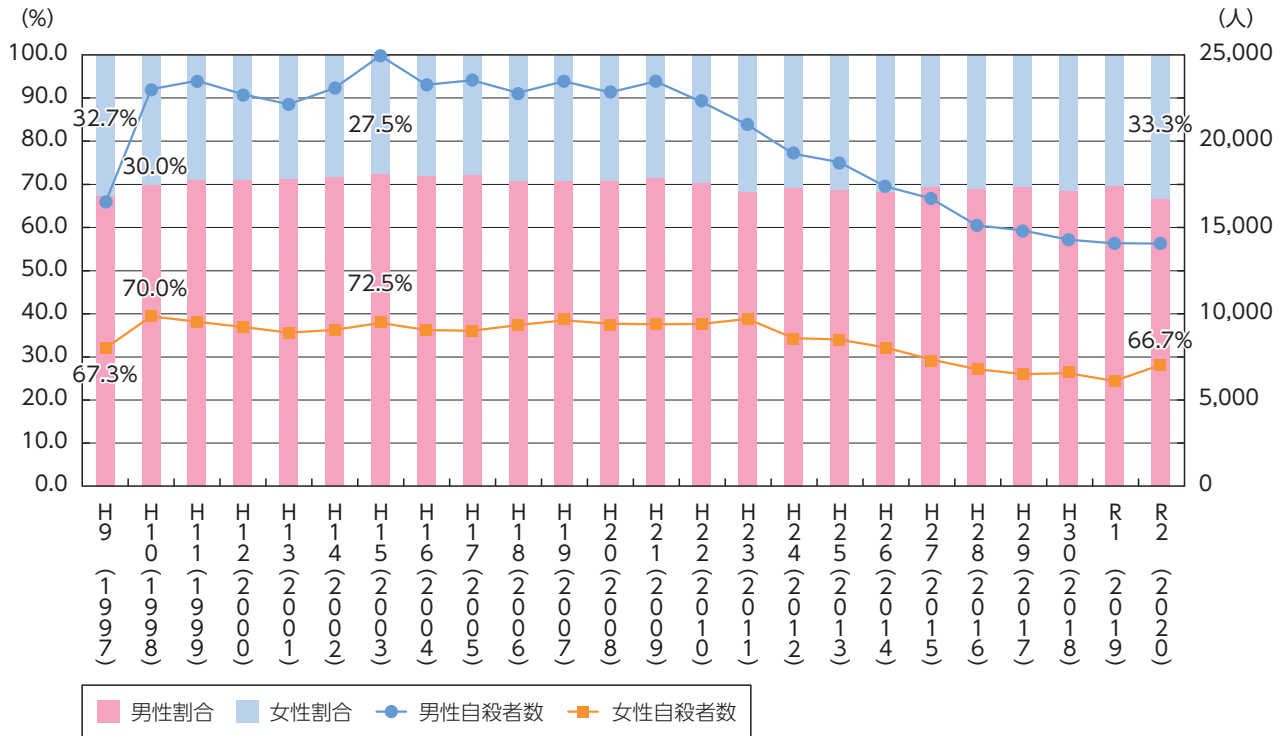
(3) 男女別の状況

令和2年における男女別の自殺者の状況を見ると、自殺統計によれば(第1-18図)、自殺者全体の男女別構成比は男性が66.7%と

なっている。

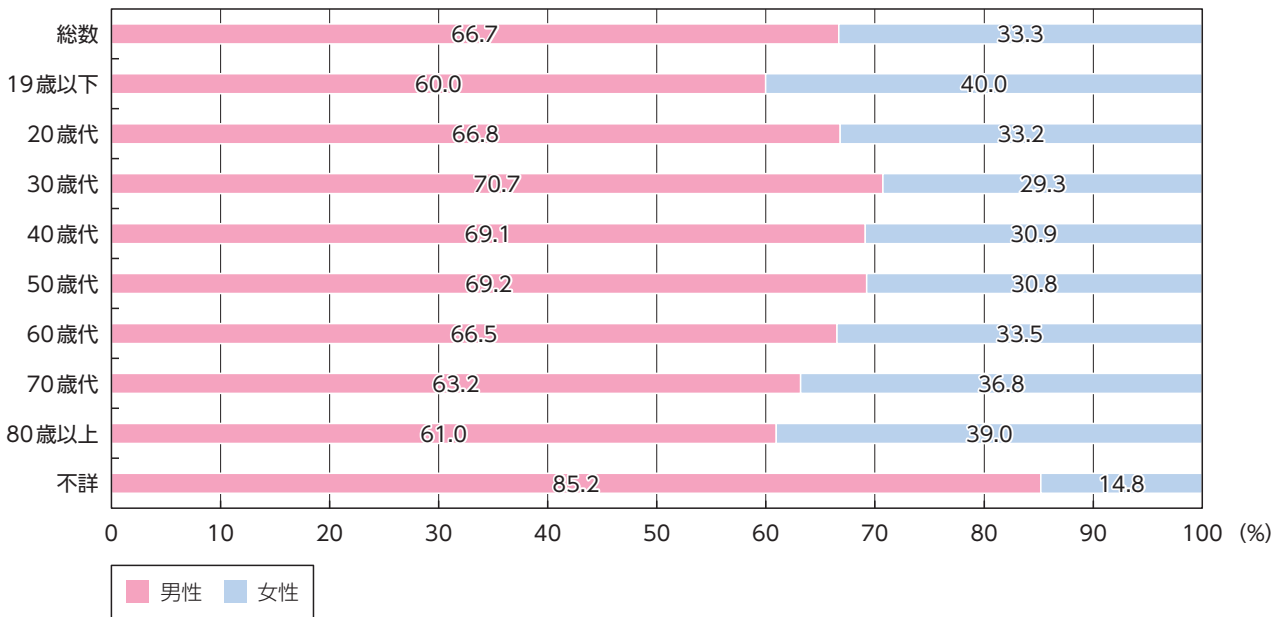
また、年齢階級別にみると(第1-19図)、全ての階級において男性の占める割合が高く、30歳代では男性が7割を超えている。

第1-18図 自殺者の男女別構成比の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-19図 令和2年における年齢階級別の自殺者の男女別構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(4) 年齢階級別の状況

令和2年における年齢階級別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-20表）、男

性では40歳代が最も多く、女性では70歳代が最も多くなっている。また、40歳代及び50歳代の男性で全体の4分の1弱を占めている。

第1-20表 令和2年における男女別の年齢階級別の自殺者の構成割合

	男		女	
	人数	構成割合	人数	構成割合
10歳代	466	2.2	311	1.5
20歳代	1,684	8.0	837	4.0
30歳代	1,846	8.8	764	3.6
40歳代	2,466	11.7	1,102	5.2
50歳代	2,371	11.2	1,054	5.0
60歳代	1,859	8.8	936	4.4
70歳代	1,912	9.1	1,114	5.3
80歳以上	1,405	6.7	900	4.3
不詳	46	0.2	8	0.0

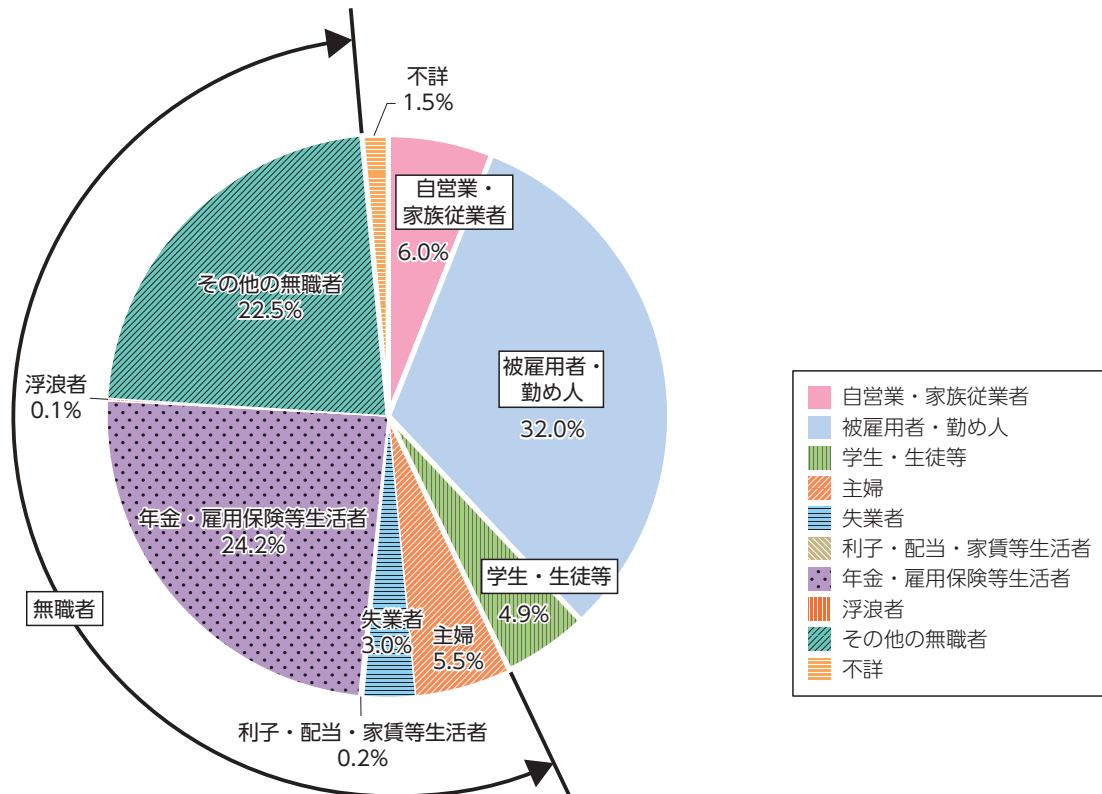
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(5) 職業別の状況

令和2年の職業別の自殺の状況を見ると、自殺統計によれば（第1-21図）、「無職者」が最も多い。「無職者」の内訳をみると、「年

金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで「その他の無職者」、「主婦」、「失業者」の順となっている。

第1-21図 令和2年における職業別自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

さらに、年齢階級別、職業別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-22表）、総数では「40歳代」及び「50歳代」が3,500人前後で、自殺者数の多い階層となっている。「自営業・家族従業者」では「40歳代」から

「60歳代」、「被雇用者・勤め人」では「20歳代」から「50歳代」、「無職者」では「70歳代」以上が多いなど、職業によって自殺者数の多い年代は異なる。

第1-22表 年齢階級別、職業別自殺者数

(単位：人)

職業別		年齢階級別									合計	
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳		
合計	計	777	2,521	2,610	3,568	3,425	2,795	3,026	2,305	54	21,081	
	男	466	1,684	1,846	2,466	2,371	1,859	1,912	1,405	46	14,055	
	女	311	837	764	1,102	1,054	936	1,114	900	8	7,026	
自営業・家族従業者	計	2	55	119	241	301	281	196	71	0	1,266	
	男	1	48	103	215	257	241	166	63	0	1,094	
	女	1	7	16	26	44	40	30	8	0	172	
被雇用者・勤め人	計	85	1,311	1,387	1,734	1,387	606	207	24	1	6,742	
	男	57	910	1,079	1,367	1,101	502	170	21	1	5,208	
	女	28	401	308	367	286	104	37	3	0	1,534	
無職	学生・生徒等	計	607	411	18	3	0	0	0	0	0	1,039
		男	357	285	10	0	0	0	0	0	0	652
		女	250	126	8	3	0	0	0	0	0	387
	無職者	計	78	708	1,041	1,541	1,670	1,873	2,602	2,205	0	11,718
		男	48	419	620	841	954	1,087	1,556	1,317	0	6,842
		女	30	289	421	700	716	786	1,046	888	0	4,876
	主婦	計	0	27	118	273	313	251	153	33	0	1,168
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	27	118	273	313	251	153	33	0	1,168
	失業者	計	3	91	123	173	186	52	8	0	0	636
		男	2	66	99	148	172	48	7	0	0	542
		女	1	25	24	25	14	4	1	0	0	94
	年金・雇用保険等生活者	計	0	33	75	166	205	895	1,911	1,816	0	5,101
		男	0	18	34	83	118	566	1,183	1,108	0	3,110
		女	0	15	41	83	87	329	728	708	0	1,991
その他	計	75	557	725	929	966	675	530	356	0	4,813	
	男	46	335	487	610	664	473	366	209	0	3,190	
	女	29	222	238	319	302	202	164	147	0	1,623	
不詳	計	5	36	45	49	67	35	21	5	53	316	
	男	3	22	34	43	59	29	20	4	45	259	
	女	2	14	11	6	8	6	1	1	8	57	

注)「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

(6) 原因・動機別の状況

令和2年における年齢別、原因・動機別の自殺者数をみると、自殺統計によれば（第1-23表）、「家庭問題」は男性、女性ともに「40歳代」と「50歳代」が多い。「健康問題」については、男性、女性ともに「70歳代」が

多い。「経済・生活問題」については、男性の方が女性よりも著しく多く、中でも「40歳代」と「50歳代」が多い。「勤務問題」についても、男性の方が女性よりも著しく多く、「20歳代」から「50歳代」が多い。「男女問題」は「20歳代」から「40歳代」が多い。

第1-23表 年齢階級別、原因・動機別自殺者数

(単位：人)

原因・動機別		年齢階級別									合計
		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	
合計	計	715	2,506	2,719	3,650	3,562	2,829	2,829	2,072	0	20,882
	男	376	1,570	1,816	2,442	2,431	1,874	1,708	1,208	0	13,425
	女	339	936	903	1,208	1,131	955	1,121	864	0	7,457
家庭問題	計	142	300	421	585	511	403	420	346	0	3,128
	男	73	185	251	359	293	241	229	205	0	1,836
	女	69	115	170	226	218	162	191	141	0	1,292
健康問題	計	166	799	1,025	1,543	1,620	1,580	1,967	1,495	0	10,195
	男	67	383	559	841	919	903	1,141	863	0	5,676
	女	99	416	466	702	701	677	826	632	0	4,519
経済・生活問題	計	16	417	503	676	778	538	238	50	0	3,216
	男	12	356	436	595	680	484	193	35	0	2,791
	女	4	61	67	81	98	54	45	15	0	425
勤務問題	計	35	409	387	490	418	137	33	9	0	1,918
	男	29	295	317	417	370	124	31	8	0	1,591
	女	6	114	70	73	48	13	2	1	0	327
男女問題	計	57	241	232	164	71	20	11	3	0	799
	男	31	116	145	99	44	18	7	2	0	462
	女	26	125	87	65	27	2	4	1	0	337
学校問題	計	234	162	8	1	0	0	0	0	0	405
	男	126	119	8	0	0	0	0	0	0	253
	女	108	43	0	1	0	0	0	0	0	152
その他	計	65	178	143	191	164	151	160	169	0	1,221
	男	38	116	100	131	125	104	107	95	0	816
	女	27	62	43	60	39	47	53	74	0	405

注：1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(15,127人)とは一致しない。

職業別、原因・動機別の状況をみると、自殺統計によれば（第1-24表）、「自営業・家族従業者」は「経済・生活問題」と「健康問題」が多く、「被雇用者・勤め人」は「健康

問題」と「勤務問題」が多い。「学生・生徒等」は「学校問題」と「健康問題」が多く、「無職者」は「健康問題」が著しく多い。

第1-24表 職業別、原因・動機別自殺者数

(単位：人)

原因・動機別	職業別	自営業・ 家族従業者	被雇用者・ 勤め人	無職					不詳	
				学生・生徒等	無職者	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者		その他
合計	計	1,355	6,841	995	11,539	1,217	775	5,045	4,502	152
	男	1,171	5,131	562	6,440	0	641	2,913	2,886	121
	女	184	1,710	433	5,099	1,217	134	2,132	1,616	31
家庭問題	計	186	1,067	158	1,692	288	67	747	590	25
	男	152	741	84	840	0	52	425	363	19
	女	34	326	74	852	288	15	322	227	6
健康問題	計	454	2,215	247	7,236	835	260	3,607	2,534	43
	男	359	1,491	117	3,678	0	195	2,017	1,466	31
	女	95	724	130	3,558	835	65	1,590	1,068	12
経済・生活問題	計	465	1,145	63	1,485	33	337	313	802	58
	男	437	1,023	46	1,232	0	304	243	685	53
	女	28	122	17	253	33	33	70	117	5
勤務問題	計	141	1,583	4	187	9	50	10	118	3
	男	132	1,309	2	145	0	41	9	95	3
	女	9	274	2	42	9	9	1	23	0
男女問題	計	48	466	65	211	11	26	28	146	9
	男	38	294	33	93	0	17	14	62	4
	女	10	172	32	118	11	9	14	84	5
学校問題	計	0	9	371	24	0	0	0	24	1
	男	0	6	228	18	0	0	0	18	1
	女	0	3	143	6	0	0	0	6	0
その他	計	61	356	87	704	41	35	340	288	13
	男	53	267	52	434	0	32	205	197	10
	女	8	89	35	270	41	3	135	91	3

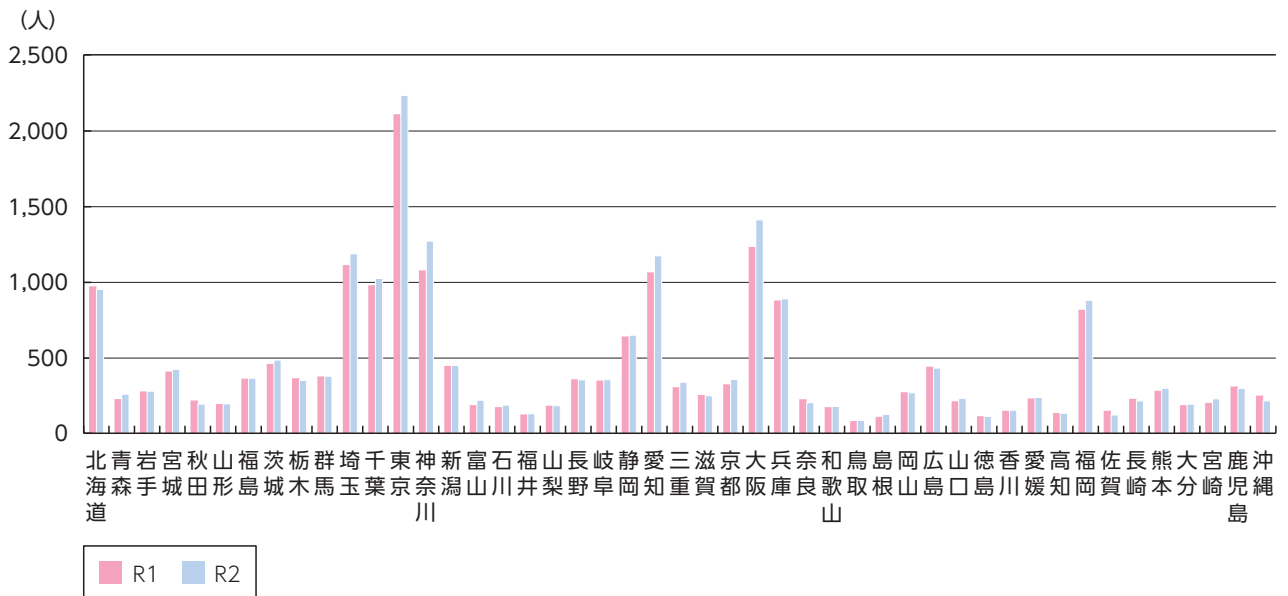
- 注：1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
 2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数（15,127人）とは一致しない。
 3) 「その他」は、「利子・配当・家賃等生活者」、「浮浪者」及び「その他の無職者」を足し合わせたもの。

(7) 都道府県別の状況

令和2年における都道府県別の自殺の状況をみると、自殺統計によれば、自殺者数につ

いては（第1-25図）前年に比べ、14道県で減少、31都府県で増加、2県で横ばいとなっている²。

第1-25図 都道府県別の自殺者数

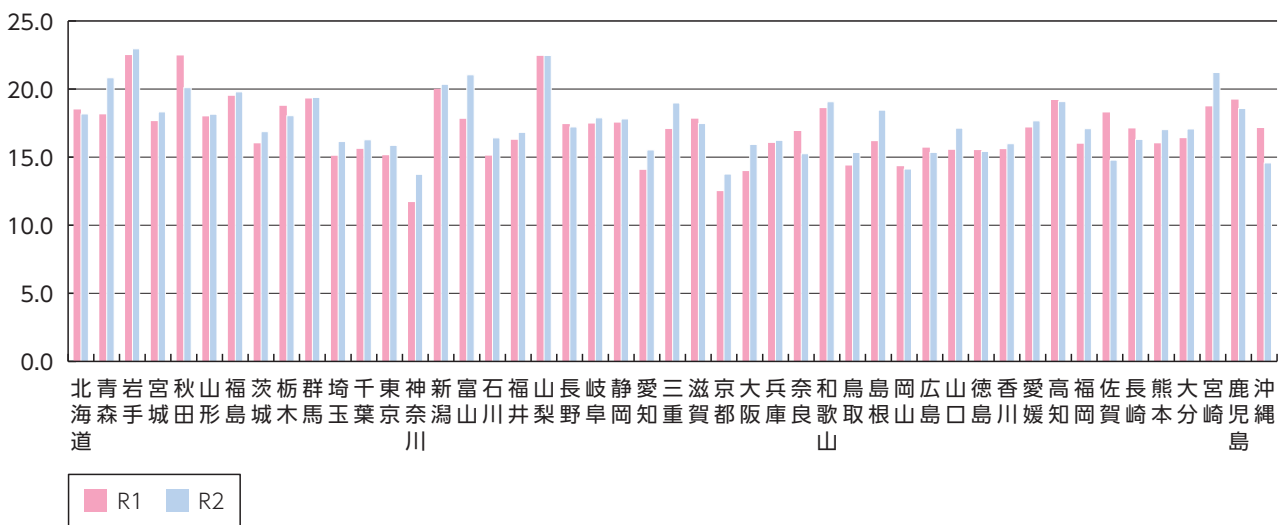


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

また、自殺死亡率についてみると（第1-26図）、前年に比べ、14道県で低下、33都府

県で上昇となっている。

第1-26図 都道府県別の自殺死亡率



資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」及び「令和2年国勢調査 人口速報集計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

2 自殺の発見地の都道府県に計上しており、自殺者の住居地とは異なる。

(8) 手段別の状況

令和2年における手段別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-27図）、男性では「首つり」（68.6%）が最も多く、次いで「飛降り」（9.7%）、「練炭等」（7.8%）となっており、女性では「首つり」（64.4%）が最も多く、次いで「飛降り」（13.4%）、「入水」（5.1%）となっている。

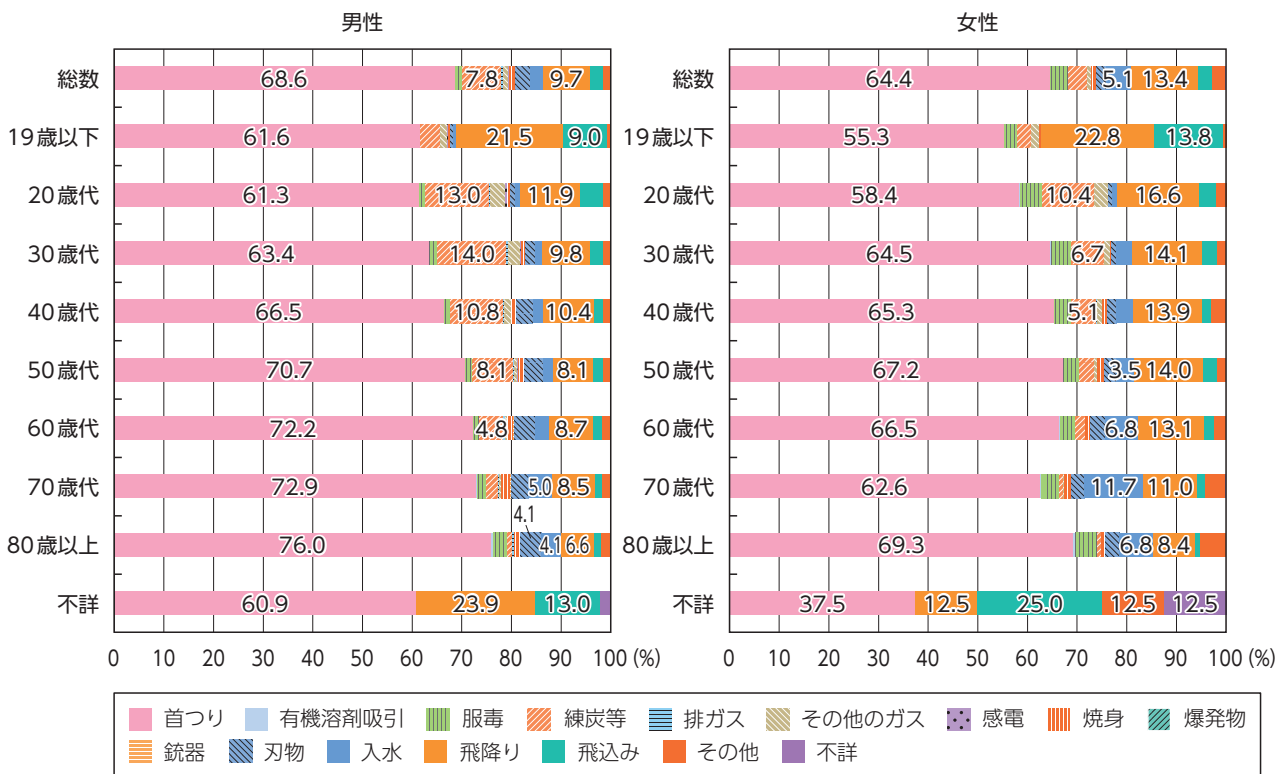
また、男女別・年齢階級別でみると、男性、女性ともに全ての階級で「首つり」が最も多い。

男性については、「首つり」に次いで、19

歳以下では「飛降り」、「飛込み」、20歳代から50歳代では「練炭等」、「飛降り」、60歳代では「飛降り」「入水」、70歳代では「飛降り」「入水」、80歳以上では「飛降り」「刃物」及び「入水」の順で多くなっている。

女性については、「首つり」に次いで、19歳以下では「飛降り」、「飛込み」、20歳代から40歳代では「飛降り」「練炭等」、50歳代、60歳代では「飛降り」「入水」、70歳代では「入水」「飛降り」、80歳以上では「飛降り」「入水」の順で多くなっている。

第1-27図 令和2年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の手段別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(9) 場所別の状況

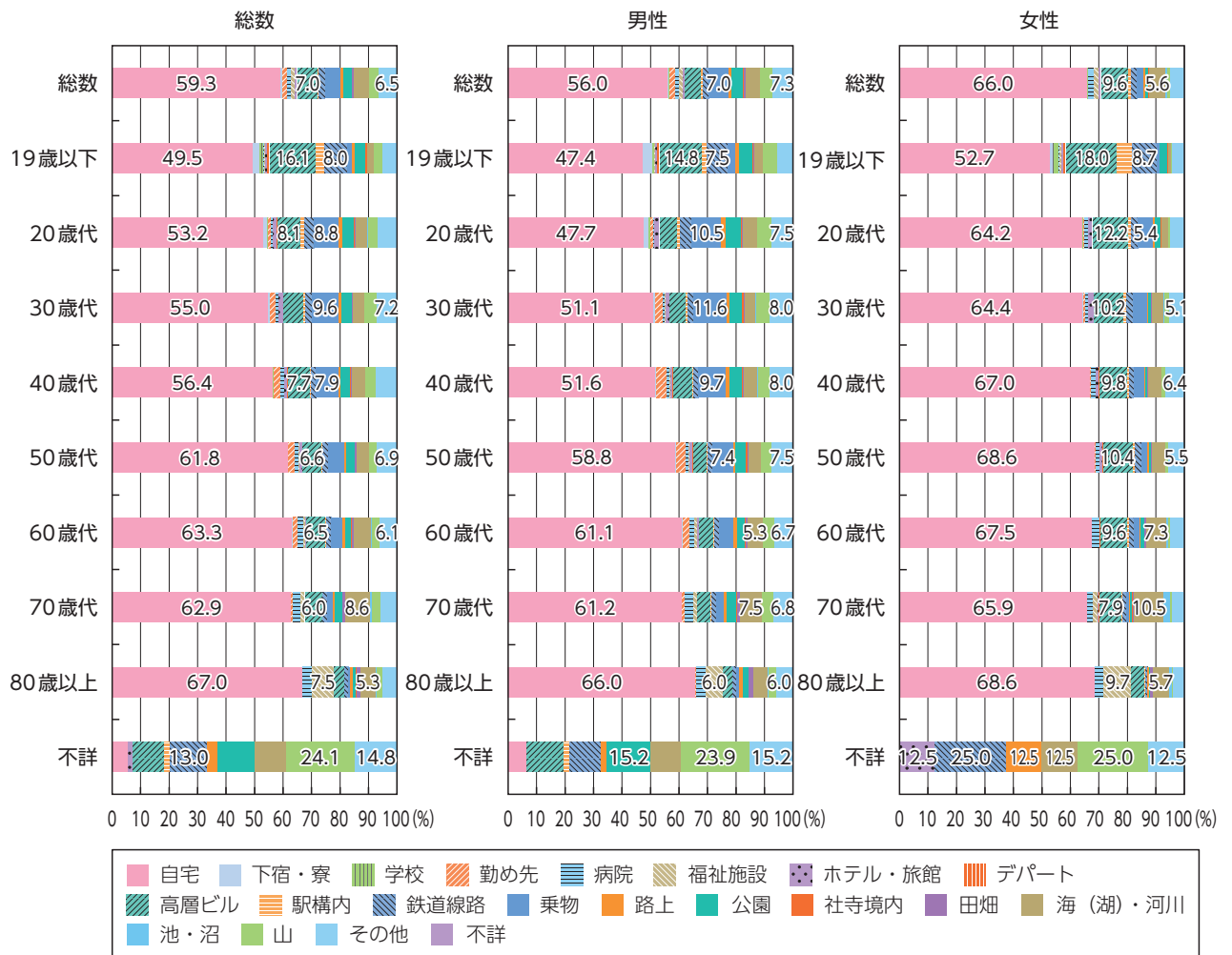
令和2年における場所別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-28図）、「自宅」（59.3%）が最も多く、次いで「高層ビル」（7.0%）、「その他」（6.5%）となっている。

男女別にみると、男性については、「自宅」（56.0%）、「その他」（7.3%）、「乗物」（7.0%）などとなっている。女性については、「自宅」（66.0%）、「高層ビル」（9.6%）、「海（湖）・河川」（5.6%）などとなっている。

年齢階級別にみると、男女とも全ての階級

において「自宅」が最も多いが、男性については、「自宅」に次いで、20歳代から40歳代までは「乗物」、19歳以下では「高層ビル」、50歳代では「その他」、70歳代では「海（湖）・河川」、80歳以上では「福祉施設」及び「その他」が多くなっている。女性についても、「自宅」に次いで、19歳以下から60歳代までは「高層ビル」、70歳代では「海（湖）・河川」、80歳以上では「福祉施設」が多くなっている。

第1-28図 令和2年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の場所別の自殺者数の構成割合



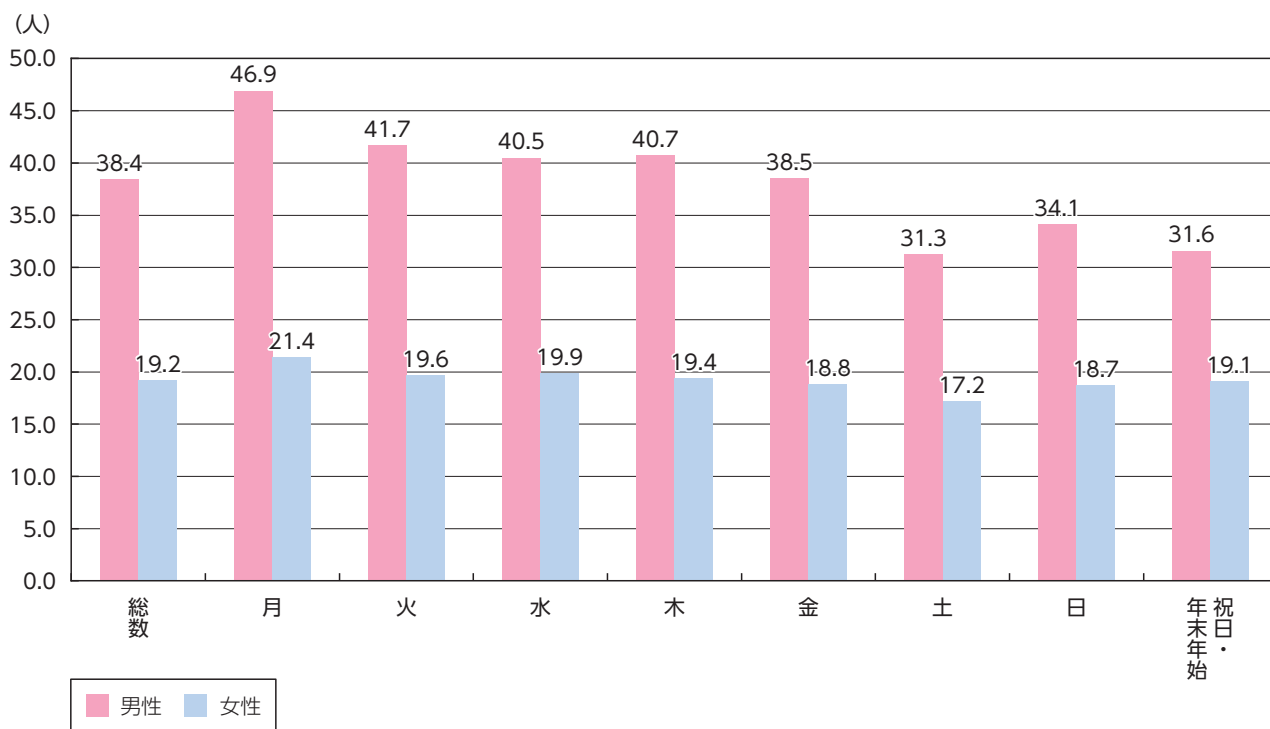
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

(10) 曜日別の状況

令和2年における発見曜日別一日平均自殺者数について、自殺統計によれば（第1-29図）、男性、女性ともに「月曜日」（男性46.9人、女性21.4人）が最も多く、次いで、男性

は「火曜日」（41.7人）、女性は「水曜日」（19.9人）が多くなっている。また、男性女性ともに「土曜日」（31.3人、17.2人）が最も少なくなっている。

第1-29図 令和2年における発見曜日別の一日平均自殺者数



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成